

# 芳泉中発未来へ

「生きる力」を育む教育をめざして

No. 3  
令和3年7月2日  
芳泉中学校  
学校だより編集部

## 備前西地区大会 緊急事態宣言下に 実施。生徒たちは、持てる力を発揮!

緊急事態宣言期間中の六月五日から、県大会出場かけた備前西地区中学校夏季体育大会が、各種目とも無観客の中行われていました。五月中旬に岡山県に緊急事態宣言が発出され、五月中は部活動が中止となりましたが、六月に入り、大会だけが無い程度にということである生徒のみ部活動が再開されました。



種目	入賞者ならびに戦績
陸上競技	男子 1位 3年100m 庄司悠矢、200m 3年庭山晴希 400m 庭山晴希(大会新) 2位 200m 庄司悠矢 男子400mリレー 3位 男子走幅跳 3年黒田陸斗 3年長崎航 3年1500m5位・800m8位、1年坂田剣毅 1年100m5位 2年亀川大喜 2年1500m 7位 県大会出場9人
	女子 2位 1500m 1年山上愛莉 3年赤木聖菜 800m 4位、2年山上愛莉 800m 6位 3年入山文那 100m 5位・200m 7位 女子400mリレー 6位 県大会出場7人
ソフトテニス	男子 団体ベスト8(県大会出場) 個人 2年松永凌・原田拓実ペア ベスト4 3年新開尊・立石慧人ペア(県大会出場)
	女子 団体ベスト8(県大会出場) 個人 3年谷口よつば・2年井上由乃ペア、2年後藤美優羽・3年奥桃子ペア、 3年岡井春果・今田心智ペア (県大会出場)
サッカー	9位(県大会出場)
バスケットボール	男子 4位(県大会出場)
	女子 5位(県大会出場)
バドミントン	男子 団体優勝(県大会出場) 個人 ダブルス1位 3年小林泰知・山上真樹ペア 3年當郷颯汰・足羽拓海ペア 3年池田慎平・阿部由斗ペア ベスト8 シングルス 3年橋谷勇磨 2年安田悠琉 (以上県大会出場)
	女子 団体準優勝(県大会出場) 個人 ダブルス2位 3年山上菜乃子・山下絢子ペア(以上県大会出場)
卓球	男子 団体(県大会出場) 個人 3年大山優頼 大北琉生 2年田尻菜 (以上県大会出場)
剣道	男子 団体ベスト8(県大会出場) 個人3年宮脇大空ベスト16 3年堂脇匠(県大会出場)
	女子 団体3位(県大会出場) 個人3年酒井乃愛(県大会出場)
柔道	団体優勝(県大会出場) 個人 体重別 1位 3年塚崎陽大 1位 3年佐藤宏胤 3位 石倉幸明 他4名(女子1名を含む)が県大会出場
ダンス	ダンスドリル選手権大会2021中四国大会 HipHop女子Medium編成 1位
新体操	県大会 2年中下祐 個人総合8位



備前西地区団体優勝をし、校長先生に報告に来た柔道部

備前西地区大会(兼岡山県中学校総合体育大会予選会)等の部活動の大会で、予選を勝ち抜き県大会への出場権を獲得したものを中心に掲載していますのでご覧ください。

## 「意見文」の取組 成果はあります!

芳泉中学校の学校教育目標は、「豊かな人間性と確かな学力を有する生徒の育成」です。その目標達成のための具体的な取組として「意見文」を実施しています。「意見文」の取組は、「書く力」「論点を見抜く力」「多面的に考える力」の育成を目指し、学年ごとに発達段階に応じたテーマを準備し、一年時から実施しています。具体的には、各学年で決められたテーマに沿って二〇〇字程度の文章に意見をまとめるトレーニングです。今年度は昨年より年間での回数は減りますが、一回一回しっかりと考え取り組んでほしいと思います。意見文の書き方のポイントは次の三点です。

- ① 課題に対する結論としての自分の意見。
- ② 自分の意見の根拠、理由、その元になった事実や経験を明確に。
- ③ 意見文の形式にそって全体の段落構成をし、最後にまとめる。

これからも、いろいろな人と話し、関わり、それぞれが直面する他人の意見を受け入れながらも「批判的」かつ「建設的」に捉えていく習慣を身に付けることは大切になります。

今回は、第三学年の生徒の意見文について取り上げてみます。テーマは「人間関係で大切なこと」についての意見を書くことでした。皆さんは、文章を読んでどのような感じるでしょうか。

○ 私は、「人間関係で大切なこと」は相手とのコミュニケーションをとることだと考える。

なぜなら、コミュニケーションをとらなければ、誤解を生じてしまう可能性があるからだ。私は吹奏楽部に入っている。その中で、楽器運搬の時に、ちゃんと仲間とコミュニケーションをとっていないと、仲間が迷子になってしまった。だから相手と協力するためにコミュニケーションをとることは必要だと思う。

○ 私は相手を思いやるのが大切だと思う。

なぜなら、相手の気持ちを考え、行動することで相手とも良好な関係を築くことができるからだ。実際に私も相手の気持ちを考えずに発言し、関係が悪くなったことがある。反対に相手のことを考え、話すことで仲が深まり、今でもよい関係が続いている人もいます。だから人間関係で大切なことは、相手を思いやることだと思う。

○ 私は、「人間関係で大切なこと」は相手の気持ちを考えることだと思ふ。

理由は相手のことを考えず、いじりやあおりをすると相手に不快感を与えてしまうからだ。私は身内同士のいじり合いなどが度を過ぎて、ケンカになったところを見たことがある。このように仲が良くないから起ったのだと思われる。この理由から相手の気持ちを考えることが大切だと考える。

どれも、意見文のポイントをしっかり押さえた文章です。一年時からの積み重ねの成果が感じられる内容でした。



みんなで ダーッシュ!

五月十六日に岡山県に緊急事態宣言が発出され、部活動が中止になり、朝練習もなくなったため、一年生の有志が、その時間に何かできないかと考え、「掃除部」を結成しました。活動は、月、水、金の朝、7時50分から8時で、生徒は自分たちが決めた場所を、楽しんで掃除していました。六月二十日(日)に緊急事態宣言が解除されることになり、二十一日(月)から部活動の朝練習も開始されることになったため、十八日(金)に「掃除部」も解散しました。十八日は7時30分頃に九人の生徒が集まり、いつもより、長く清掃活動をし、8時に残念ながら引退となりました。誰から言われるでもなく、善い行いを楽しんで行っていたことが立派で、素敵だと思えます。

芳泉中学校では今までもボランテニア活動が盛んで、今年に入って、グッドビエイビア表彰も多く行われ、早くも十二名の生徒が表彰されています。善い行いをすることで、他人から喜ばれ、感謝され、自分の心も豊かになります。このような素敵な生徒がどんどん増えることを期待しています。あいさつ運動をはじめ多くのボランティア活動をしてくれている生徒の皆さん、ありがとうございます。

チームの仲間を励ましながらかしき雑巾がけ



## 小学校での「あいさつ運動」再開

六月二十一日（月）、緊急事態宣言が解除され、中学生が小学校に出向いてのあいさつ運動が一カ月ぶりに再開されました。今回は、二年生のボランティアが、芳泉、浦安両小学校に分かれ挨拶を行いました。地域の方や保護者の皆様もありがとうございました。今学期は七月十二日（月）にも一回実施予定です。次は三年生のボランティアの皆さんです。よろしくお願います。



母校で後輩たちにあいさつをする1年生

## 授業風景 二年生国語「短歌」

試合前  
「お願いします」のあいさつに  
覚悟を決めて深呼吸

寒い日か  
恋しい夏の  
暑い日か

恋しい夏の  
暑い日か  
白銀の白

二年生は国語の授業で短歌作成に取り組みました。学校生活や日々の生活の場面の中から言葉を探したり、選んだりして五・七・五・七・七の定型に。あまりに気持ちがいっぱいだったので、できあがった作品を集め、図書館で短歌鑑賞会を行いました。

クラスメートの書いた短歌を声に出して読み味わいながら鑑賞しています。部活動・テスト・給食・ゲーム・恋とお題は様々です。「わかる！」「いいね！」と、共感しながら、作品の前に置かれていた鑑賞シートに、言葉遣いが優れているものには黄色シール、表現技法が優れているものには青色シール、心情がよく分かるものには赤色シールを貼っていききました。「俺のみて！」とアピールしている生徒も。歌われている情景を想像しながら、クラスメートがどんな物の見方をしているかを知る素晴らしい時間となりました。



友だちの作品を楽しそうに品評する生徒

## 二年生 平和学習で 語り部さんから広島 原爆について学ぶ

六月二十九日（火）に、倉敷被爆者の会の方をお招きして原爆についての講演会を行いました。

二年生は九月に広島に平和学習に行きます。その準備として、ビデオやスライドを視聴したり、調べ学習をするなどしてきました。そして語り部さんからの話を聴く機会も設定し、平和について考えを深めています。

語り部の豊田富士子さんは十五歳の時に広島で被爆し、現在九十歳ですが、張りのある声で、平和への思いを込めて講演してくださいます。生徒は、真剣に話を聴き、涙を流している生徒もいました。以下、生徒の感想を紹介します。

●語り部さんの話を聞いて、映像などはまた違い、すごい悲痛な叫びという感じがした。実際経験されて、聴いていて、やはり地獄だった。目の前が真っ暗になるくらい恐ろしかった。核兵器一個だけでこんなにも被害があり、たくさんの方々の笑顔を奪いと、自分だったらどれだけ苦しいか想像した。これからは、罪のない人から何もかも奪わないようにちゃんと考えて生活したい。これから広島研修に行くけれどそこでしっかり知って味わいたい。それをこれから先に伝えていきたい。広めていきたい。戦争がどれだけ苦しいかをまだ戦争を知らない人にちゃんと伝えたい。「戦争なんて二度としてはならないことなんだよ。」と。これからの人も笑顔になれるように伝えていきたい。今は昔よりも幸せだということ。

●私は、今まで戦争について資料や映像で学んできました。そして自分でできる限り理解してきました。でも、今日の語り部さんの話を聴いて資料や映像では分からない被爆した方の想いを感じました。語り部さんは何年も前の出来事だけれど、まるでつい最近のことのように感じました。その時のことを話してくださりました。ずっと忘れられないくらい辛い事なのだと思います。

今日、私は初めて知ったことがたくさんありました。例えば、原子爆弾が落ちた瞬間のことや、落ちた後の人々の様子のことです。それは私が想像している以上に悲惨なことでした。そんな苦しい状況を乗り越えた私たちに話をしてくださった語り部さんには感謝しかありません。話しぶりが事だったと思います。それでも話してくれただけには、私たちがこの歴史をずっと伝えていき、二度と繰り返さないために行動しなくてはならないと思います。私たちに、二口しか飲めなかった水のおいしさも、あと少しのところで母親に会えなかった子の苦しみも完全にはわかりません。でも唯一の被爆国である日本に生まれた人間として、なくてはならないことがあると強く思いました。この思いを忘れず、広島研修を、これからの人生を、一生けんめいがんばっていきこうと思います。



## 子ども新聞 「さん太タイムズ」 記事より

六月二十七日（日）、毎週日曜発行の「子どもさん太タイムズ」に本校図書館司書の妹尾源子さんの記事が掲載されました。先生は、図書館を居心地の良い空間にするため、授業や調べ学習でも利用しやすいように、記事にあるように色々工夫しています。

二年生の短歌の授業においても教室とは違う雰囲気の中、生徒は楽しそうに学習していました。本校は「朝読書」にも取り組んでおり、本と接する機会も多くあります。朝の10分が一年間積み重ねると三十時間以上にもなります。有意義な時間になっているのでしょうか。図書館には、ためになる本、楽しい本がたくさんあります。読書を通して、新しい発見をどんどんしてみよう。



## 学校図書館から

### 転校生は「透明人間」!?

「おとり屋」で優等生の中学二年生、吉原監督は、ある日、担任から転校生の世話係を頼まれます。その転校生は「なんと「透明人間」!?」「メイ・ドイン 十四歳」（石川宏千花著、講談社）は、そんなびっくりする展開で始まります。

アメリカから来た浅瀬くんは、本人の語によると、脳の病気のため、周りの人からは自分が見えなくなる脳波を出してしまっているんです。理論的



「あの頃は良かった」なんて言い合う大人にはなりたくない、未来の自分は今の自分がしたことで作られていく、など、主人公が中でつぶやく言葉の数々を、読後に味わってみるのもオススメです。

### 学年を超えた交流の場

図書館では、いろいろな生徒のレポートを二年生が読んでいたり、作品を展示して紹介したりと、学年を超えた交流の場となっています。互いに良い刺激になるのはもちろん、大人が見ても生徒の豊かな表現力や意外な着眼点に驚かされます。

図書館は読書や学習をする場としての他に、知的創造の広場としての役割もあります。「図書館に行く」と新しい発見がある。面白いな」と足を運んでみる存在でありたいと思います。

## 特集

岡山市立芳泉中 学校司書 妹尾 源子

## 体育会 分散で 9月に実施

9月6日(月)の週の5時間目に、学年ごとに、学年種目・学級対抗リレーを行います。6時間目は応援合戦の練習をします。10日(金)は、5、6時間目に応援合戦とスペシャルリレーを行います。保護者の皆様、地域の皆様には申し訳ございませんが、今回も無観客での実施とします。ご理解のほどよろしくお願いいたします。